

令和5年度京田辺市障害者基本計画等策定委員会（第2回）議事録【要旨】

*第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画素案について

○質問・意見

【委員】事業所調査結果概要の「提供するサービスの質の向上に向けた課題」で、「職員の資質向上」が62.5%と非常に高い数字が出ている。今把握している現状や今後の具体的な取組みについて聞きたい。

第1章 成果目標「①福祉施設の入所者の地域生活への移行」について、令和4年度末時点での施設入所者数「37人」の6%以上移行で約2.2人となるのか。また、「②福祉施設入所者数の削減」について、令和4年度時点の施設入所者数の5%以上削減で約1.8人となり、①②合わせると令和8年度は4人減り、施設入所者数は「33人」となるのか。（3）居住系サービスの令和4年度の施設入所支援の実績値が「36人」だが、令和8年度の計画値は「34人」となっている。数値が一致しないこともあると思うが、よく分からないので教えていただきたい。

（事務局）職員の資質向上については、主に基幹相談支援センターの委託事業として虐待防止やサービス等利用計画に関する研修を年2回実施。資格取得の取組みでは、介護保険課で介護保険初任者研修の実施や修了者が施設で1年以上勤めた場合の支援金補助を行っている。

①は入所施設以外に医療機関を退院した人数も含まれる。②は福祉施設を退所した人数となり、それぞれ「2人」で「4人」減っていれば目標達成となる。数値が一致しない点は、担当に確認し、またご報告する。

【委員】同じく「職員の資質向上」について、職員のあるべき姿など、どのような人材を育成すれば良いのか詳しく聞きたい。

【委員】事業所により育成すべき人材は違う。成人の施設はそれほど資格取得はないが、児童の施設では保育士や児童指導員などを配置することで報酬の加算対象となる。調査の設問に対する回答が難しかったと思う。

【委員】「職員の過不足」で、人材確保の課題について別にも記載があるが、人材不足を掲げる事業所が多い。事業所間の連携強化や福祉教育の推進も含め、人

材確保について計画に盛り込めたら良いと思う。

地域移行については、より踏み込んだ積極的な計画値を見込んではいかがでしょうかと思った。

【委員】相談支援の中で、施設入所支援の利用人数はそれほど多くない。家族の状況や本人の特性などにより、最終的な選択肢として施設入所を選ばれているのが現状。一方、地域移行の実現に向けた地域での受け皿や人材も含め、支援に携わる人のネットワークを通じて、日々考えながら相談支援を行っている。

【委員】地域の事業所、施設、社会資源でどこまで支援できるのかを考える必要がある。ハローワークの求人に対しても応募がほとんどなく、お金をかけて人材確保をしている状況。

【委員】国として、介護や福祉、運輸関係などへの就職者減少に対する政策も進めているが、若年者のハローワーク窓口利用者は減少している。求職登録者の中で精神に障がいのある方が増加している。

今後、障害者雇用率が0.2%ずつ上がっていくが厳しい状況だと思う。

(事務局) 前々年度から福祉人材フェアを年1回開催しているが、なかなか厳しい現状である。

訪問系サービスの居宅介護の数値はもっと多く見込めるかも知れないが、利用者の高齢化と同様に事業所職員も高齢化している。短期的な取組みも必要だが、長期的な目線でも取り組んでいかなければならない。

【委員】(3) 居住系サービスの「共同生活援助」について、京田辺市はグループホームが少ないのではないかと。利用者数が横ばいになっているのはどういうことか。

(事務局) 出て行く方、残念ながら亡くなる方もいる一方で、新たに入る方もいる。

大きな増減はなく、横ばいで推移していくと見込んだ。

【委員】施設の空き情報や新しい施設もできてはいるが、人材不足などの課題が多い。

【委員】児童発達支援センターについて。府のセンターは発達検査を6か月以上待っているという声も聞く。体制等含めて施策として考えていくべきである。

*京田辺市“生きる”支援計画（京田辺市自殺対策計画）について

○質問・意見

【委員】（2）自殺に関する動向で、令和3年度の人数が多いのはコロナの関係か。
（事務局）全ての事例がコロナではない。

【委員】京田辺市には大学があり、地方から来ている学生も多いが、アルバイトをしていない子も多いと聞く。卒業後、就職してもコミュニケーションをうまく取れずに辞める方もいる。

また、子育て中のお母さんが子どもを幼稚園等に預けた後、誰ともおしゃべりができずに孤立していたり、無職の方も多く、社会と繋がることを考えないといけない。一人でも、自死・自殺をなくす必要がある。